

教科目名 社会システム (Infrastructure System)

学科名・学年 : 機械工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 学習保証時間 22.5 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
<p>本科目は, JABEE が要請する「社会技術」の知識を獲得するために開講する科目である。21 世紀に入り, 日本の経済, 産業構造は大きな変革を求められている。また, 少子高齢化と雇用形態の変化は我々の社会システムを大きく変えつつある。これらの大きな流れは, わが国の政治・経済や都市・地域のさまざまな側面にも大きな影響を与えている。そこで, 本講義では, ①このような状況にある都市・地域を正しく認識し, ②日本の社会システムが国際経済のグローバル化の中で位置づけられることを理解し, ③これらの経済のグローバル化の理論的根拠が経済学に求められ, 経済学を学ぶ重要性を理解することを目的として学習するものである。</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (E2), JABEE 目標 (d1⑤) (d2a)	
<p>(1) わが国の経済社会で起きている事象・問題を正しく現状認識ができる。(定期試験) (2) 地域経済学の初歩が理解できる。(定期試験) (3) 都市や地域で起きている問題に関して, 事例を調べて小論文にすることができる。(レポート)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. 都市概説	<ul style="list-style-type: none"> ○社会システムの概要について説明する。 ○日本の都市の定義を学ぶ。 ○わが国の都市の分類について理解する。 ○わが国の都市の分類方法について理解する。 ○世界の都市について理解を深める。 ○都市の歴史について学ぶ。 ○田園都市論について理解する。 ○経済学の基礎用語について理解する。 ○EU, NAFTA, ASEAN, NIEs 等, 国際広域経済圏の過去と現状について理解する。 ○OECD, IMF 等の国際機関について学び, 我が国との関わりを理解する。 	【理解の度合い】
	1-1 日本の都市		
1	(1) 都市とは		
2	(2) 都市の分類		
	1-2 都市計画区域		
3	1-3 世界の国と都市		
4	1-4 都市計画の歴史		
5	2. 経済のグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ○分からなかったところを理解する。 ○日本経済のグローバル化と国際経済の現状について理解する。 ○社会経済の潮流について, アメリカ型新自由主義と北欧型福祉国家について理解する。 ○A. Smith と J. M. Keynes の二人の経済学者について現代社会に与えた影響を理解する。 ○公共財の供給に関する経済理論を学ぶ。 ○市場の失敗や外部不経済を理解する。 ○新たな社会資本整備の手法である PFI を英国の事例を通して学ぶ。 	【試験の点数】 点
	2-1 国際広域経済圏		
	(1) 欧州連合		
	(2) 北米自由貿易協定		
	(3) 東南アジア諸国連合		
6	(4) 国際機関		
7	これまでのまとめ		
8	後期中間試験		
9	後期中間試験の解答と解説		
	2-2 日本経済のグローバル化		
10	3. 社会経済の潮流	<ul style="list-style-type: none"> ○市場の失敗・外部不経済 ○PFI 	【試験の点数】 点
	(1) 小さな政府と大きな政府論		
14	(2) 経済学及び経済学者の貢献		
	(3) 市場の失敗・外部不経済		
15	後期期末試験		
	後期末試験の解答と解説		
履修上の注意	社会科学に興味のある学生の受講を望む。		【総合達成度】
教科書	なし		
参考図書	石井一郎・湯沢昭編著『地域・都市計画』, 鹿島出版会		
関連科目	情報ネットワーク (専攻科), 生産システム特論 (専攻科), 環境保全工学 (専攻科), センサ工学 (専攻科), プロジェクト実験 I (専攻科)		
総合評価	<p>達成目標の(1)～(3)について定期試験とレポートで評価する。 総合評価 = $0.7 \times (2 \text{ 回の定期試験の平均}) + 0.3 \times (\text{レポート})$ 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は, 総合評価が 60 点に満たない者に対して実施する。なお, 再試験の受験資格は, レポートを提出した者で, かつ, 定期試験の成績が 40 点以上の者に与える。</p>		